

国民の生涯を通じた  
健診情報の一元化を目指した  
「健診標準フォーマット」の推進と活用  
について

平成28年5月19日

日本医師会  
副会長 今村 聡

# 生涯保健事業の推進による健康寿命の延伸

## 【総論】

乳幼児期から高齢期に至るまで、医療等IDを活用して、必要な健診項目を網羅した保健事業を展開し、蓄積されたデータが国民の健康管理に適切に反映されるような仕組みを講じる。

## 【各論】

### 1. 特定健診関係

事業主健診データを企業から保険者へ移行するため、健診標準フォーマットを用いて、健診機関が一元化されたデータ仕様で企業にデータ提供するための体制整備が必要。

### 2. 地域保健関係

国民がいつでもどこで健診を受診して、いつでもどこで医療受診が必要になった場合でも、過去の自身の健診データをかかりつけ医等が参照し、診断補助や保健指導に活用できる等、施設・組織横断的な健診データの管理が可能となる健診標準フォーマットの運用が必要。

— 日本医師会「平成29年度予算 概算要求に向けての要望事項(抜粋)—

# 健診標準フォーマットの策定と運用の必要性

医療等IDの議論が進む中、健診や人間ドックの結果データに関しては健診機関ごとに健診データの仕様等が異なることから管理者が大規模集積を行うことは困難。



日本医師会は、「健診標準フォーマット」の運用により、医療機関、健診機関、健診関係団体等による、組織横断型の健診データ標準仕様を策定し、組織・団体間の連携が可能なデータ構築を目指している。

# 生涯保健事業の体系化のため「健診標準フォーマット」の普及に向けた、国の施策等に対する取組み

## 1. 内閣官房、経済産業省

健康・医療データの大規模データ収集における、健診データ仕様の一元化と基盤整備への取組み

## 2. 厚生労働省、保険者協議会等

①保険者によるデータヘルス計画策定における、データ分析のための健(検)診データ収集に向けた基盤整備への取組み

②特定健診における、事業主健診データの保険者への円滑な提供のため、健診機関におけるデータ仕様一元化への取組み

国の施策等に位置づけられるためには、日本医学健康管理評価協議会による、健診関係団体の総意として健(検)診データの標準化への取組みを推進していくことが重要。

# 「健診標準フォーマット」を紹介した国等の主な会議

会議等の所管	会議等の名称	日医参画役員
内閣官房	次世代医療ICT基盤協議会	横倉会長
内閣府	規制改革会議「健康・医療ワーキンググループ」	今村副会長
	総合科学技術・イノベーション会議重要課題専門調査会 「地域における人とくらしのワーキンググループ」	今村副会長
経済産業省	次世代ヘルスケア産業協議会 「健康投資ワーキンググループ」	今村副会長
	健康経営銘柄発表会	今村副会長
	企業・保険者等が有する個人の健康・医療情報を活用した 行動変容に向けた検討会	石川常任理事
厚生労働省	保険者による健診保健指導に関する検討会	今村副会長
	厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会	道永常任理事
	実務担当者による特定健診・特定保健指導に関する ワーキンググループ	羽鳥常任理事
日本健康会議	重症化予防ワーキンググループ	今村副会長
MEJ	渡航受診者受入れ医療機関のリスト化に向けた調査委員会	今村副会長

# 平成28年度以降の「健診標準フォーマット」導入予定施設

## 1. 医師会共同利用施設（平成25年度の施設数）

- ① 医師会病院: 83施設
- ② 医師会健診センター: 58施設
- ③ 医師会検査・健診センター複合体: 67施設
- ④ 医師会臨床検査センター: 54施設

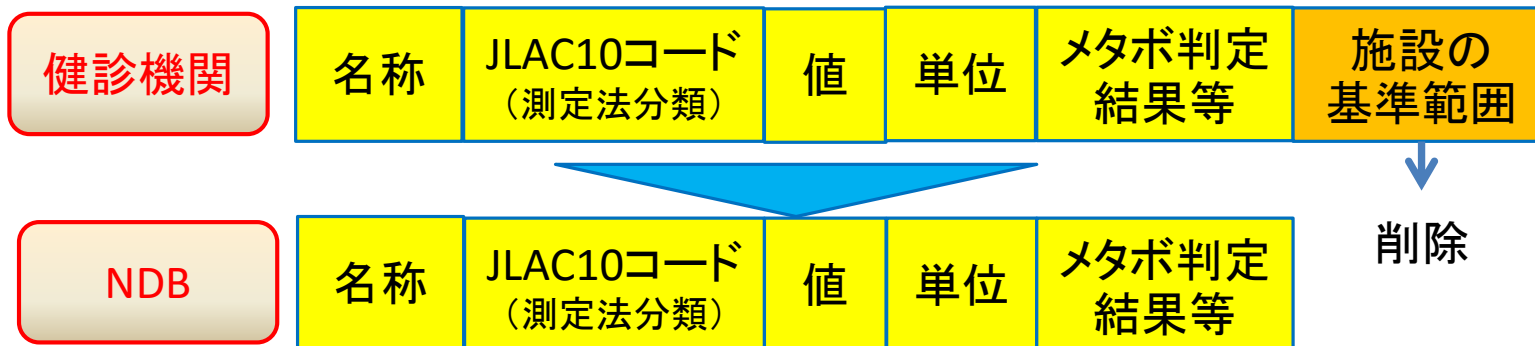
※一部の臨床検査センターでは特定健診等データ作成のため代行入力を行っていることから対象としている。

## 2. 健診関係団体の加入施設・機関

- ① 日本人間ドック学会: 施設会員1,633施設（平成26年）
- ② 日本総合健診医学会: 施設会員407施設（平成27年）
- ③ 全国労働衛生団体連合会: 会員173機関（平成27年）

※健診施設では、複数の認証を取得しているため、施設の合計が必ずしも健診標準フォーマットの導入対象とはならない。

# ナショナルデータベースで管理される検査データと「健診標準フォーマット」で作成された検査データの違い

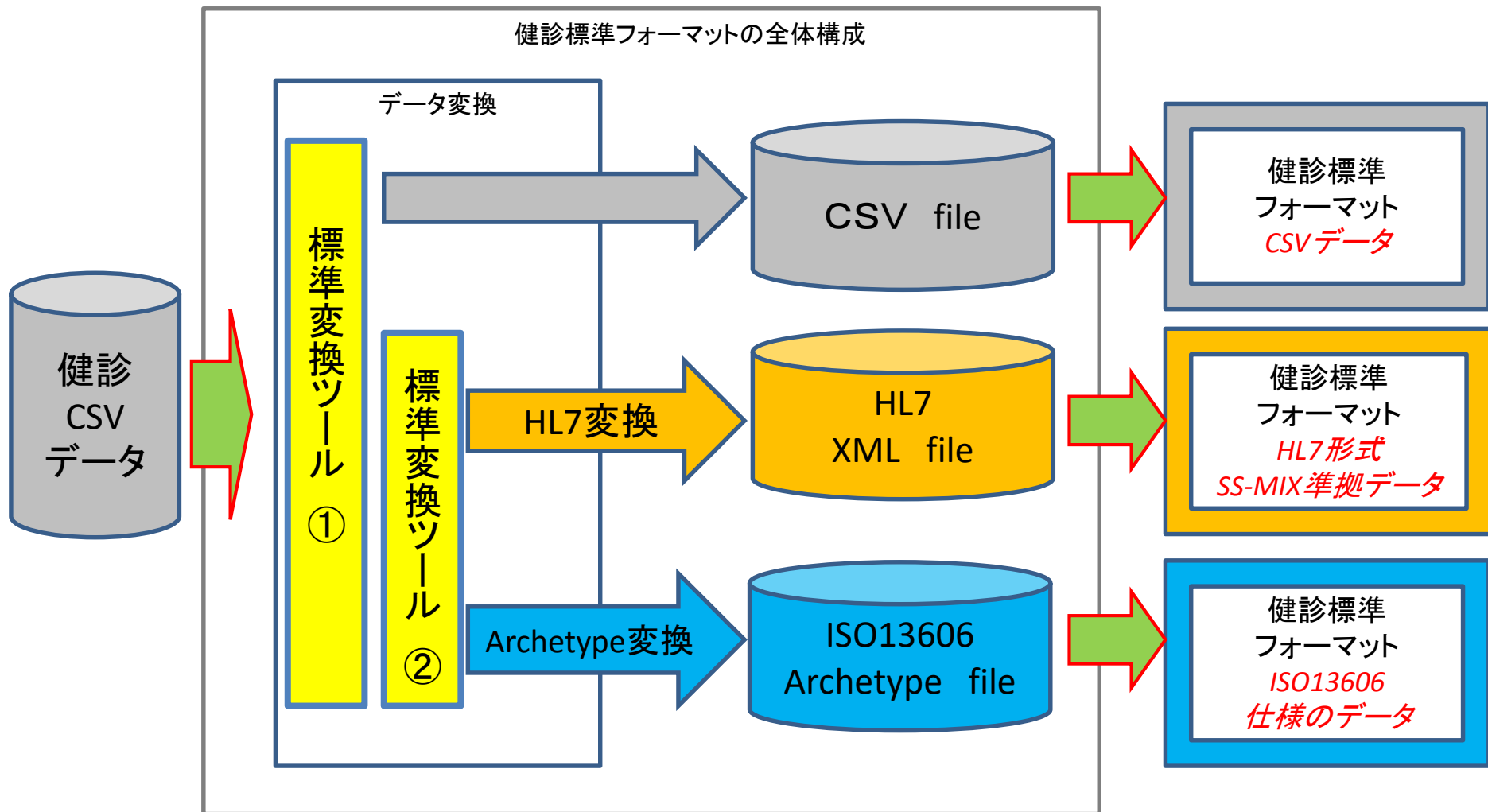


- ① NDBでは、施設の基準範囲は除外される。
- ② NDBでは、特定健診の基本健診・詳細健診項目のみ取扱う。  
 → 市町村独自の健診項目や同時実施されたがん検診などの検査データは集積されていない。  
 → 突合されたレセプトのうち、高血圧症、糖尿病、脂質異常疾患のみ分析が可能となる。



- ① 「健診標準フォーマット」で作成されるデータの対象は特定健診の基本健診・詳細健診、市町村の独自健診、対策型がん検診等で、NDBよりも広い疾病分野の集積が可能となる。
- ② 「健診標準フォーマット」では健診機関で把握している情報をそのまま格納する。  
 → 個票データ: 「施設の基準範囲」や「付帯情報」を含めたデータを次の「健診」や「医療」の場に正確に伝えることが重要。  
 → 集計データ: 「付帯情報」等、集計時に除外すべき対象を記録しておくことが重要。

# 「健診標準フォーマット」運用による健診データ変換と作成ファイル



健診機関で抽出される健診結果のCSVデータは、2つの標準変換ツールを用いることで様々なファイル形式に対応することができる。



# 医師会共同利用施設等による健診データ変換方法

- ◆各施設に共用DB用ハードディスクを設置して、「健診標準フォーマット」によるデータファイルを作成・保存する。
- ◆保存された健診データを匿名化・暗号化した上で日医総研に提供していただく。

①施設内の健診システムでCSVファイルを作成



④変換後のデータファイルは外付HDに蓄積。

②「共用DB用HD(外付)」に格納されている「変換ツール」を起動

③「変換ツール」でCSVファイルを健診標準フォーマットに変換

# 「健診標準フォーマット」への健診データ変換状況

医師会・健診機関	健診機関における データ管理項目数	サンプルによる データ変換件数	本格運用における データ変換件数
西宮市医師会	700	1,555	作業中
姫路市医師会		保留中	保留中
徳山医師会病院		保留中	保留中
短大市医師会健康支援センター		保留中	保留中
早川医師会	162	1,044	作業中
半田市医師会健康管理センター	700	2,321	40,895
焼津市医師会臨床検査センター	302	1,245	作業中
石川県医師会臨床検査センター	700	250	7,183
高岡市医師会臨床検査センター		保留中	保留中
石岡市医師会病院健診センター		保留中	保留中
茨城県メディカルセンター	345	1,001	作業中
白旗市医師会情報管理センター	370	274	18,554
佐賀県医師会成人病予防センター	404	1,687	81,626
福岡市医師会成人病センター	319	4,778	4,962
宝徳医師会病院	1602	13,197	13,197
医師会共同利用施設 小計		27,352	166,417
サービス産業健康保険組合	702	43,049	43,049
診療所	229	761	761
クリニック	229	966	966
クリニック	742	104,718	104,718
健康管理センター	700	3,055	3,055
課本部	88	648,144	648,144
健康センター		作業中	作業中
日本赤十字社医学協会	808	作業中	作業中
医師会以外の協力健診機関 小計		800,693	800,693
合計		828,045	967,110

◆平成28年3月25日現在、1健保組合を含む16施設で、合計96万件の健診データが「健診標準フォーマット」に変換された。

# 健診標準フォーマットへの変換データによる 健診項目に関する一次分析

平成28年4月

日 医 総 研

# 健診標準フォーマットDBによる予備分析の結果

---

1. 分析対象データ数(4/7現在): 249,300件

2. 分析対象施設と抽出データ数

①医師会共同利用施設: 全国5カ所で取り扱い数の多い施設。

101,824件から抽出、75,570件

②全国展開健診施設

104,718件から抽出、71,521件

③都内大型健診施設

109,563件から抽出、102,209件

3. 分析対象の健診種類

特定健診、事業所健診、ドック健診等の健診データのうち性・年齢、身体測定、血液検査データがあるもの。

4. 分析対象検査項目

①AST(GOT) ②ALT(GPT) ③ $\gamma$ GT ④HDLコレステロール ⑤LDLコレステロール

⑥中性脂肪(TG) ⑦総コレステロール ⑧Friedwald式(nonHDL)

# 健診標準フォーマットへの健診データ変換状況

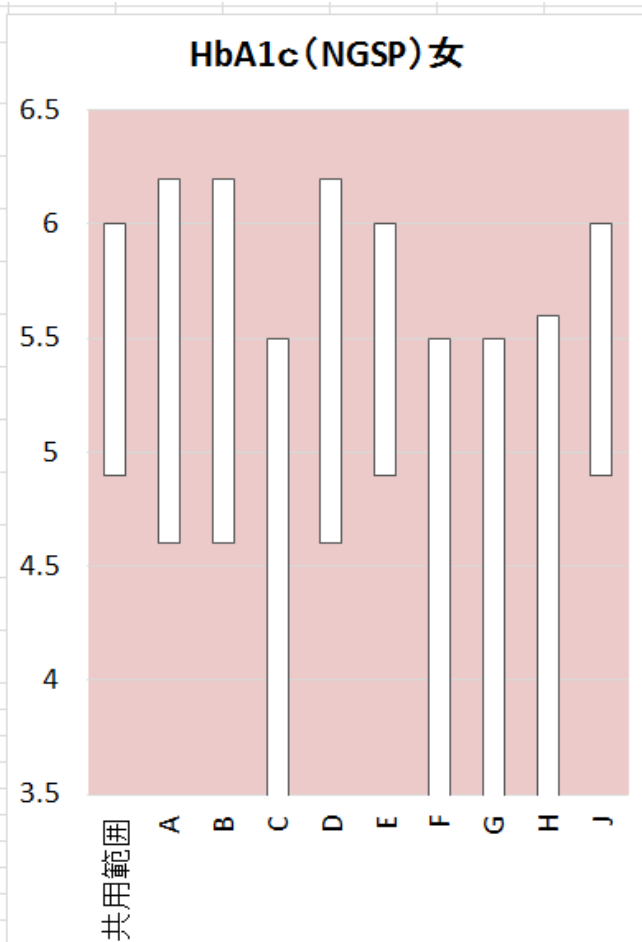
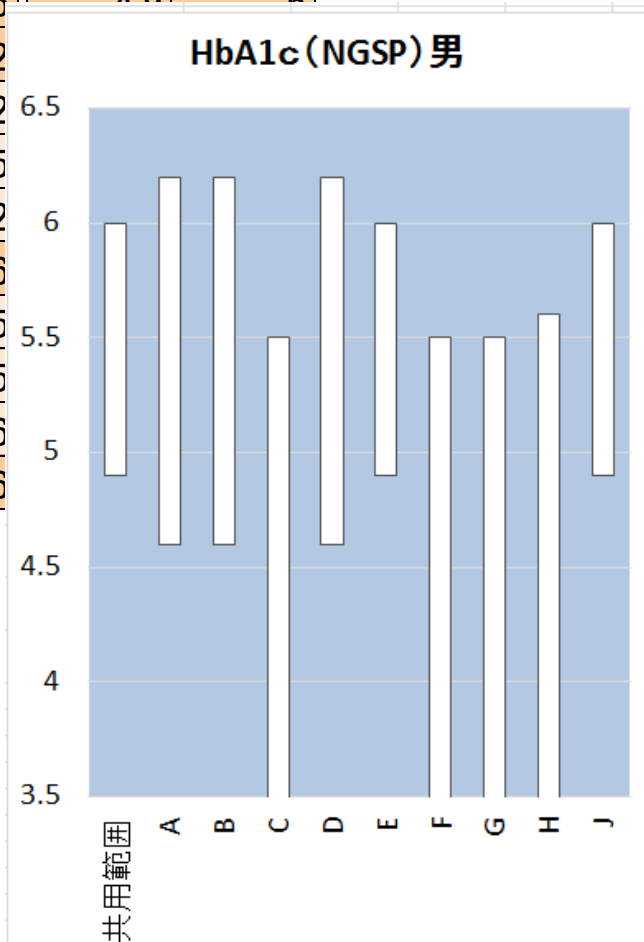
## －平成28年3月25日現在：13施設の分析－

健診標準フォーマットへのデータ変換状況：健診区分単位					
	施設システム	特定健診	事業者健診	がん検診	人間ドック
	抽出CSVデータ数	協会けんぽ	一般定期健診	対策型	
施設A	2,321		2,321		
施設B	245				245
施設C	1,001	200	801		
施設D	1,555		1,177	178	200
施設E	4,778		4,120	81	577
施設F	1,372	222	910		240
施設G	1,044	68	976		
施設H	274	132	82		60
施設I	13,197	7,474	4,278	706	739
施設J	250				
施設K	104,718				
施設L	648,145				
施設M	966				966
施設N	761				761
施設O	43,048			20,012	23,036
施設P	3,055				3,055
合計	826,730	8,096	14,665	20,977	29,879

◆「健診標準フォーマット」は事業者健診やがん検診等も包含することから、地域単位で健診データが一元化されれば、地域全体の健診や検診の実施状況や健診結果の分析を行うことが可能になる。

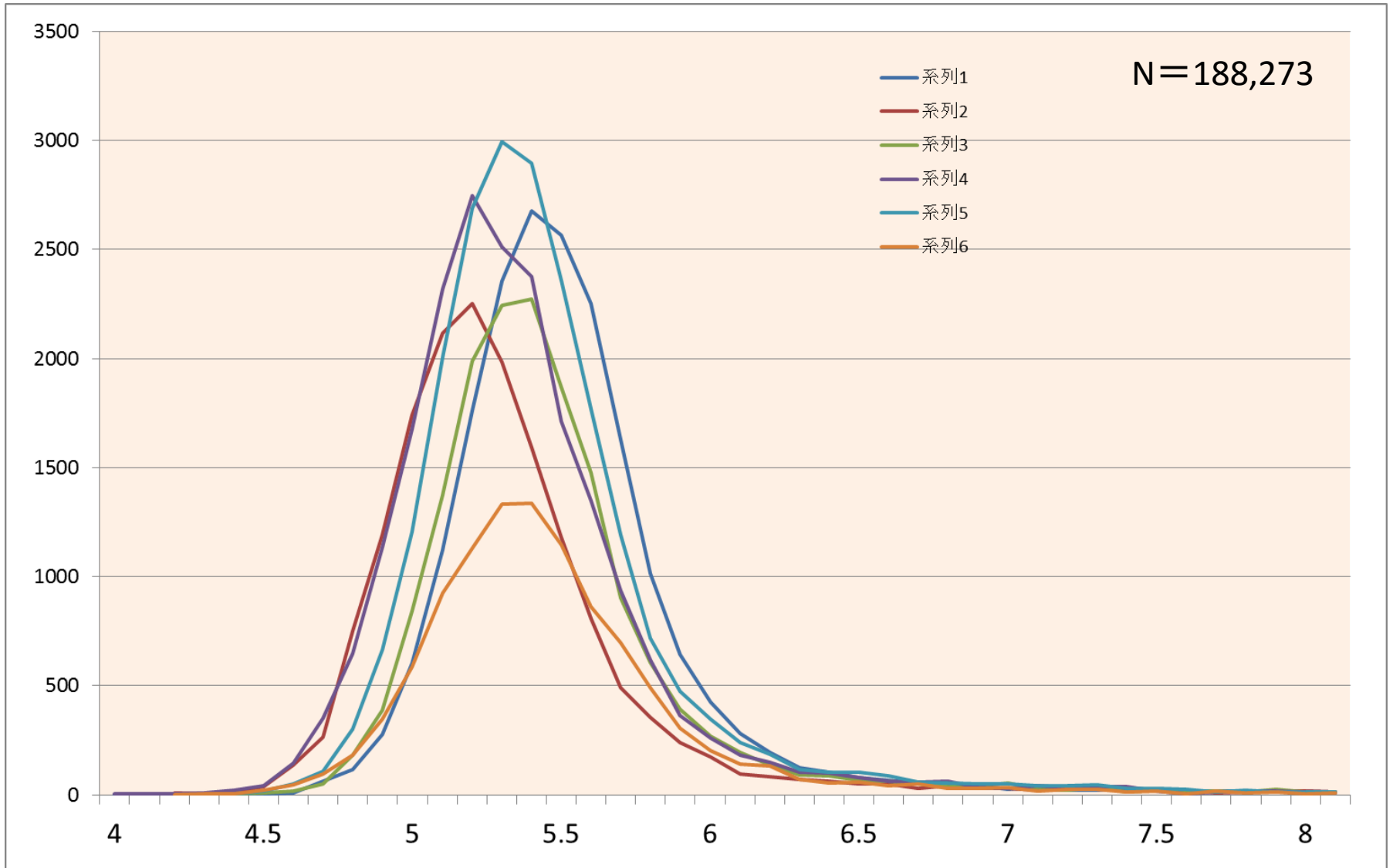
# 由来情報の集計結果：HbA1cの基準範囲

HbA1c	男/下限	男/上限	女/下限	女/上限
共用範囲	4.9	6.0	4.9	6.0
A	4.6	6.2	4.6	6.2
B	4.6	6.2	4.6	6.2
C	5.0	5.5	5.0	5.5
D	4.6	6.2	4.6	6.2
E	4.9	6.0	4.9	6.0
F	5.0	5.5	5.0	5.5
G	5.0	5.5	5.0	5.5
H	5.0	5.6	5.0	5.6
J	4.9	6.0	4.9	6.0

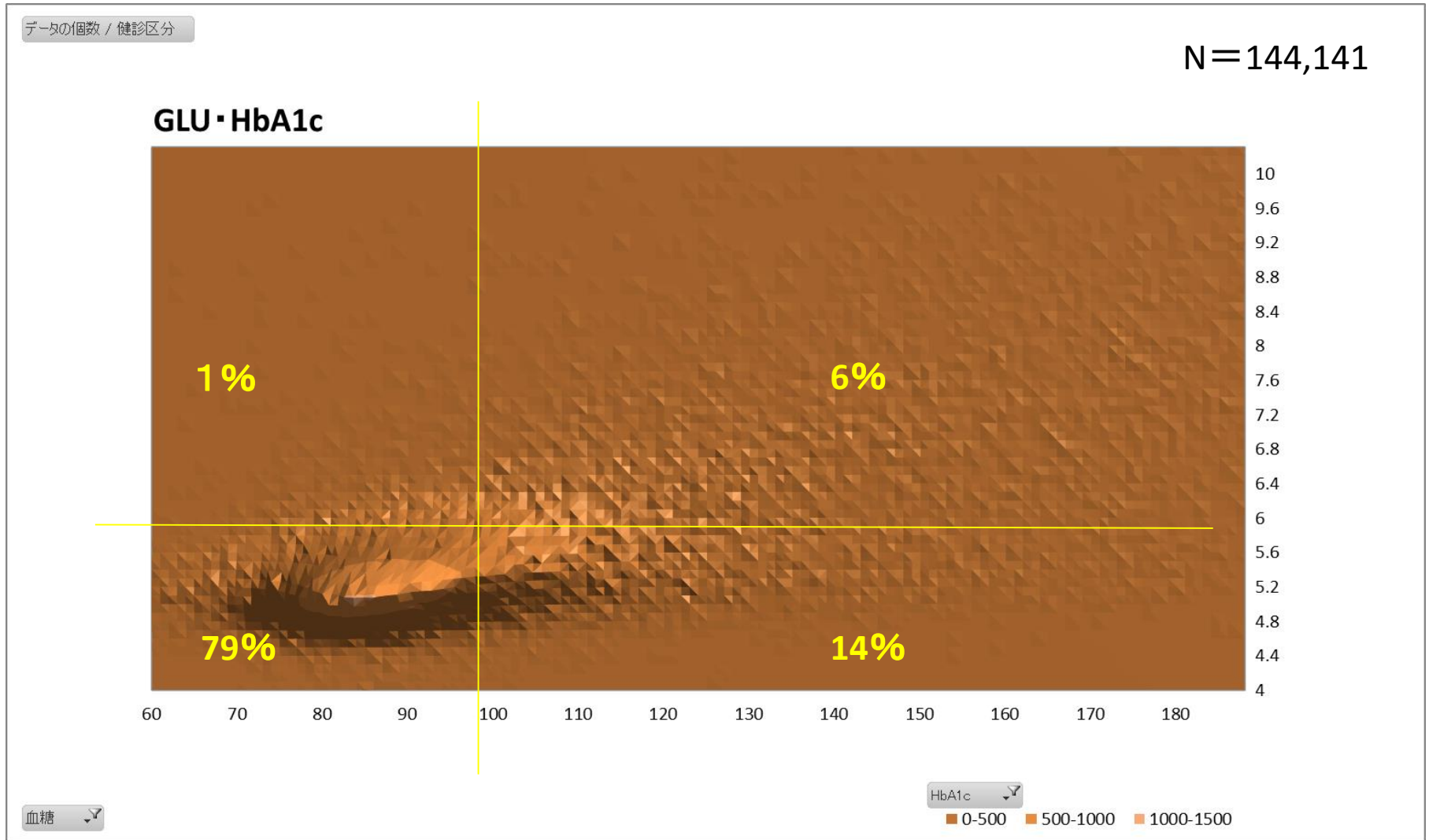


日本臨床検査標準化協議会（JCCLS）が示しているHbA1cの共用基準範囲は4.9～6.0%（NGSP）であるが、各施設の基準範囲はバラついている

# HbA1c

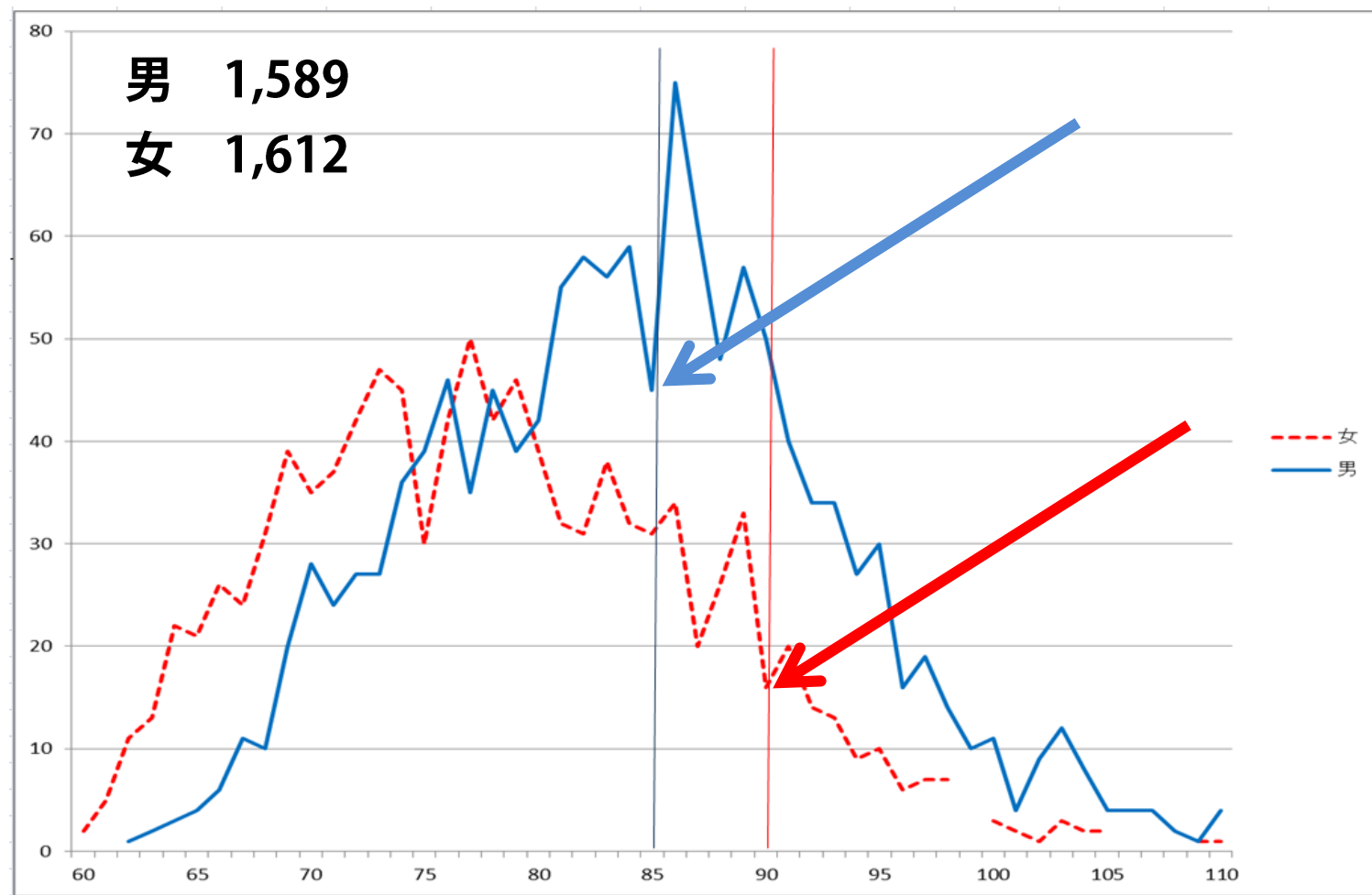


# GLU・HbA1cの分布



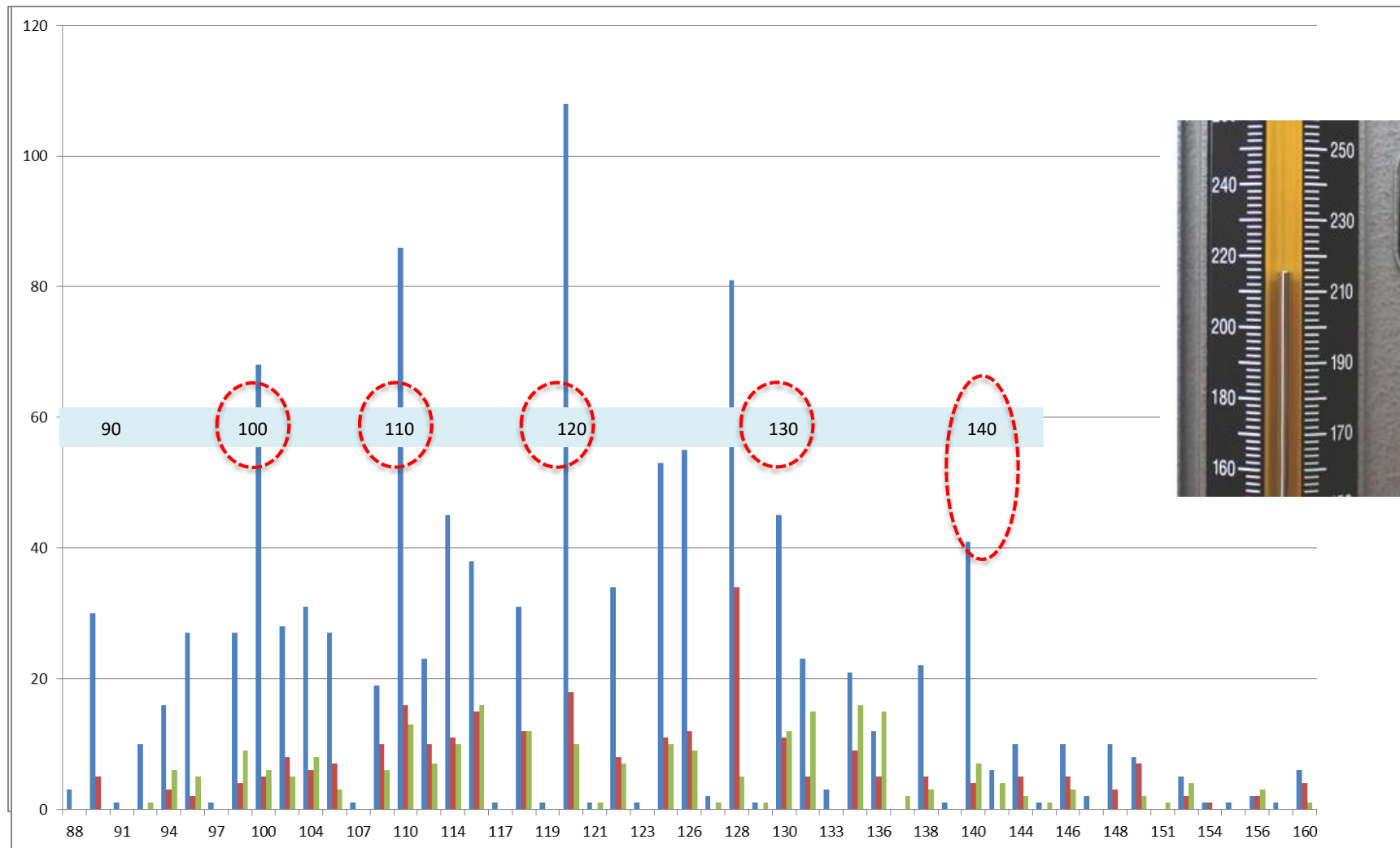


# 収集データの分布：腹囲



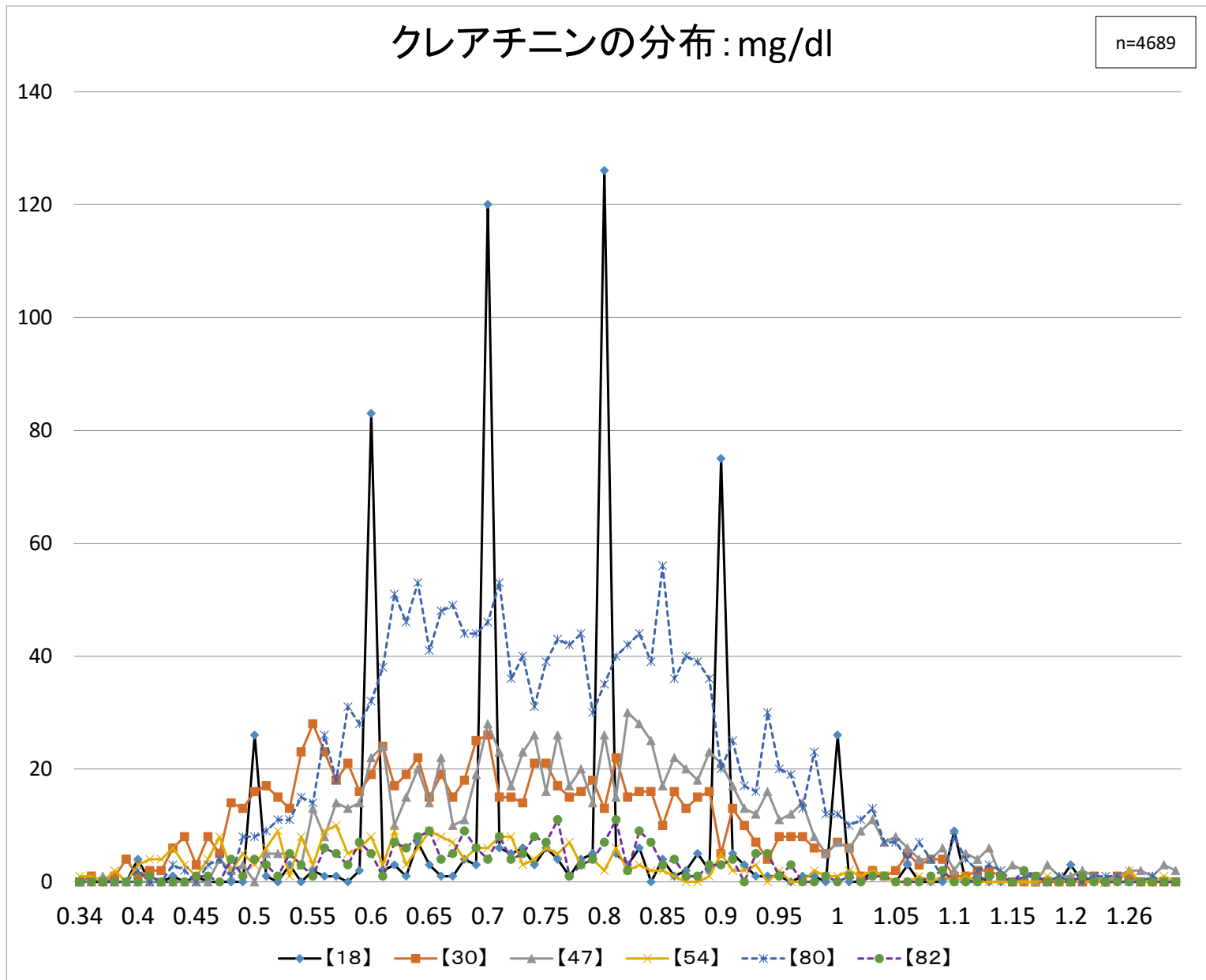
男性女性ともに、特定健診階層化判定リスクとなる85 cm、90 cmが落ち込んでおり、男性は「リスク要因側」に、女性は「リスク要因回避側」に偏る傾向がみられる。

# 収集データの分布：収縮期血圧

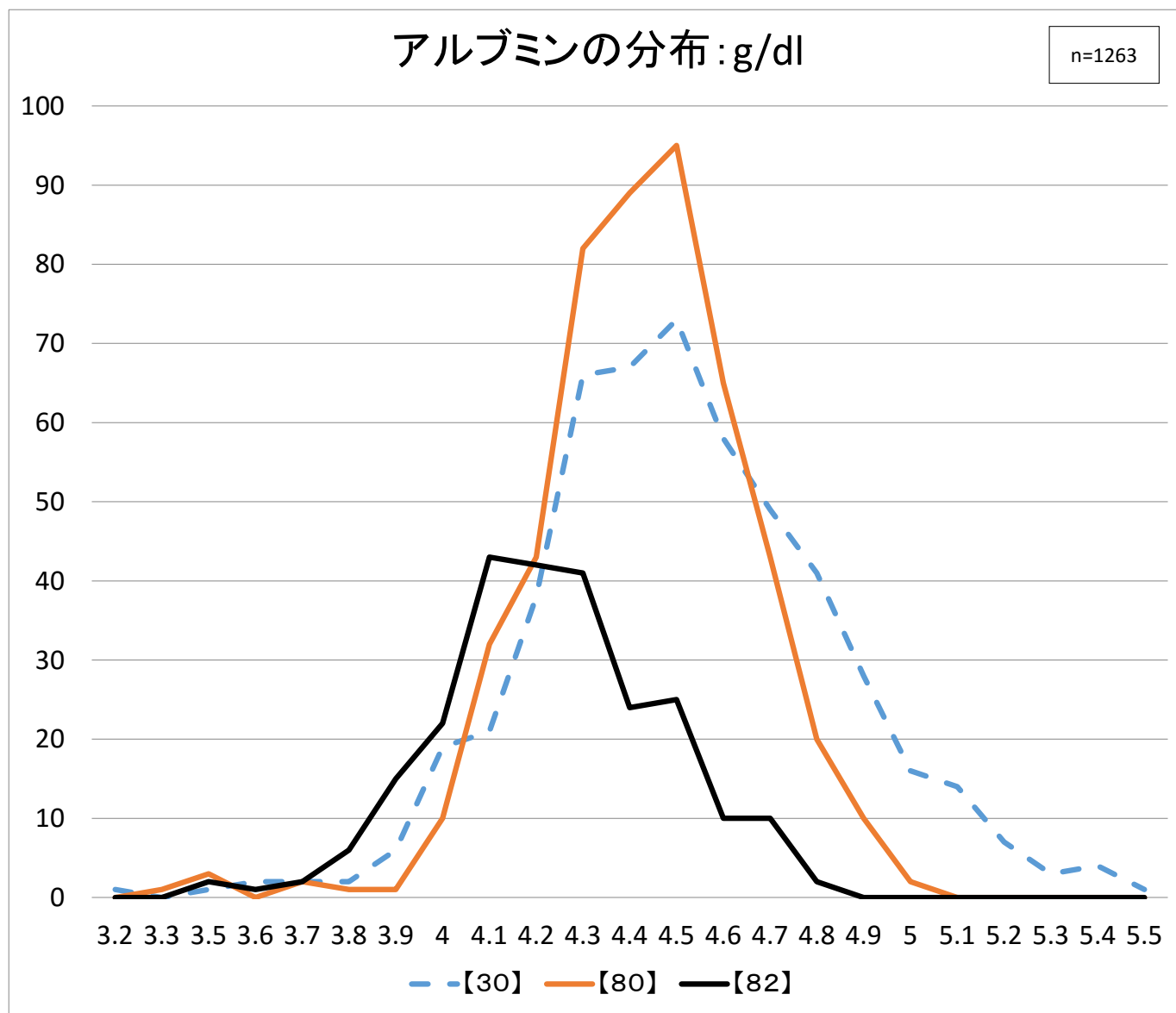


1施設では100mmHg、110mmHg、120mmHgと10単位ごとの結果が突出している

# 健診データ変換後の施設比較分析の例(6施設)



# 健診データ変換後の施設比較分析の例(3施設)



# 健診標準フォーマットの今後の活用

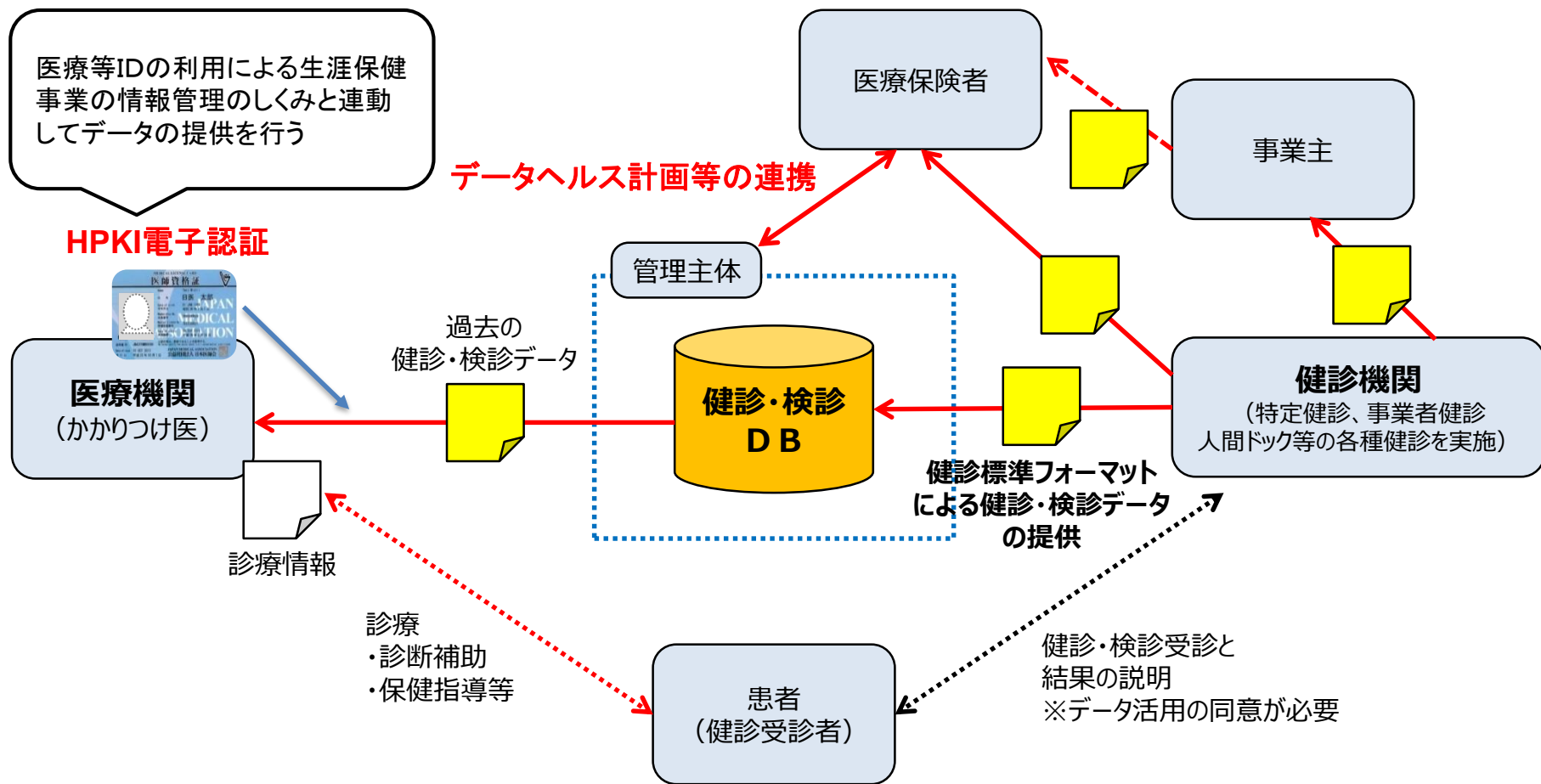
平成28年5月

日 本 医 師 会

# 【平成28年度検討事項】生涯を通じた住民への健康管理支援①

## — かかりつけ医に対する健診等データの提供 —

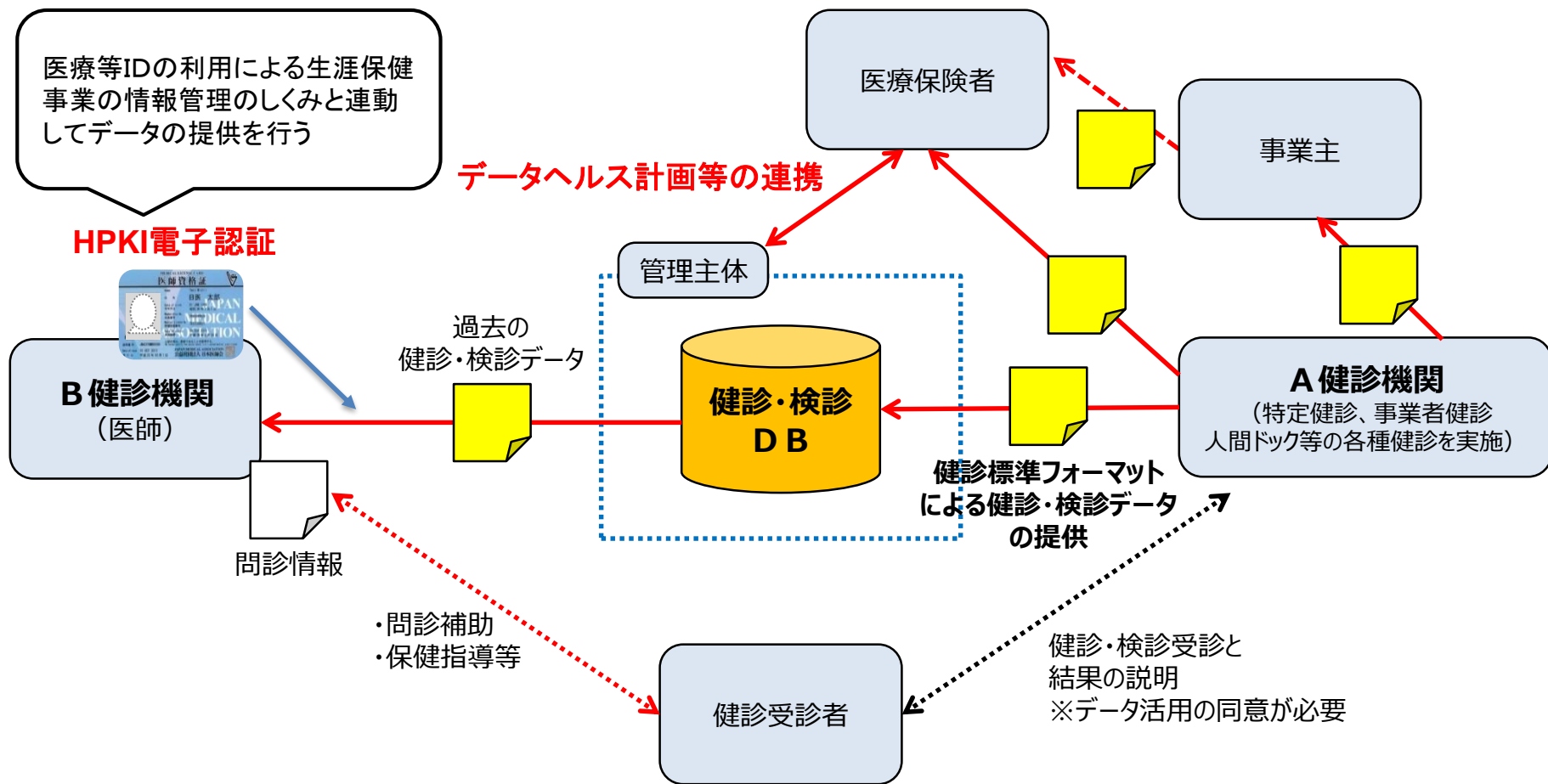
健診等データを医療従事者がアクセスできる場所にも格納することで、かかりつけ医が患者の診療時に健診等データを参照して、診断補助や保健指導等に活用できるようにする。（データ利用には医師資格証HPKIを提示する）



# 【平成28年度検討事項】生涯を通じた住民への健康管理支援②

## －健診実施機関の医師に対する健診等データの提供－

健診等データを医療従事者がアクセスできる場所にも格納することで、健診実施機関の医師が患者の診療時に健診等データを参照して、問診時の補助や保健指導等に活用できるようにする。（データ利用には医師資格証HPKIを提示する）



# 【平成28年度検討事項】生涯を通じた住民への健康管理支援③

## — かかりつけ医に対する健診等の分析データの提供 —

健診機関から提供される健診標準フォーマットにより標準化された健診データのデータベース化や分析データの活用により、かかりつけ医と地域の支援者による連携による地域の重症化予防の施策に役立てることができる。

